

銀行格付報告書

- 企業格付制度とは
- 格付表(前期)(当期)
- 格付解説
- 格付アップ検討ポイント

サンプル

様

企業格付け制度とは

企業格付けとは・・・

金融機関がつける企業の“内申書”のようなものです。具体的には、各金融機関が取引先企業の今後3～5年間における信用力をスコアリングして10～15項目に分類することで、各金融機関が独自のスコアリングシート(得点表)を使用して、最低年に1回、企業の決算書を受け取った際等に行われています。

企業格付けの持つ5つの意味

1. 融資実行の有無・・・・・・・・格付けが良いほど有利
2. 金利水準・・・・・・・・格付けが悪いほど高い
3. 担保・保証水準・・・・・・・・格付けが悪いほど厳しい
4. 審査要件の差・・・・・・・・格付けが悪いほど承認ハードルが高い
5. 審査処理プロセスの差・・優良格付先ほど簡素化と迅速化が進む

(注)実際の格付は金融機関ごとに異なります。

前期

財務格付けワークシート

単位 千円

平成23年3月31日

	結果	配点	点数	説明
1 安全性項目				
自己資本比率	23.1%	10	3	自己資本÷総資産
ギアリング比率	266.7%	10	0	有利子負債(商手除く)÷自己資本
固定長期適合率	74.1%	7	3	固定資産÷(固定負債+自己資本)
流動比率	158.3%	7	5	流動資産÷流動負債
2 収益性項目				
売上高経常利益率	2.4%	5	3	経常利益÷売上高
総資本経常利益率	2.5%	5	3	経常利益÷総資本
収益フロー	0	5	0	それ以外
3 成長性項目				
経常利益増加率	-220.0%	5	0	(当期経常利益-前期経常利益)÷前期経常利益
自己資本額	23	15	1	自己資本(単位:百万円)
売上高	100	5	1	売上高(単位:百万円)
4 返済能力				
債務償還年数	10.3	20	5	有利子負債(商手除く)÷償却前営業利益(単位:年)
インタレスト・カバレッジ・レシオ	1.6	15	4	(営業利益+受取利息・配当金)÷支払利息・割引料
キャッシュフロー額	5,800	20	2	営業利益+減価償却費(単位:千円)
定量要因計		129	30	
100点法による採点		100	23	

格付	ポイント	内容	債務者区分	
格付1	リスクなし	安全性は最高水準に達しており、財務内容とも極めて優れていると判断される企業。融資先としてのリスクは最小限で、債務償還は非常に安定的な収益からもたらされ、返済の可能性が最も高い。個別要因の変化はあっても、今後数年間は極めて安定的に業況推移すると考えられる。	正常先	
格付2	ほとんどリスクなし	かなり優れていると判断される企業。格付1とともに上位格付の企業であり、現在のところ返済の確実性は極めて高く、業況にも懸念がない。ただし、格付1と比較すると安全性はやや劣り、長期的には与信リスクに影響を及ぼす要因が発生する可能性もある。		
格付3	リスク些少	貸出先としてはかなり魅力的。かつ安定した内容を有する企業である。返済の可能性はかなり高く、元利払いが滞る可能性は低い。長期的な視野に立って見ると安全性を低下せしめる要因が顕在化する可能性を秘めている。		
格付4	リスクあるが良好水準	現時点での融資元利払いの確実性は高いが、やや心配な特定の要因を内包しており、将来的に返済の確実性が低下するか、信用状況に懸念が生じる可能性がある。償還能力が安定すると判断する要素が不足しており、実際上のリスクがあると判断される。		
格付5	リスクあるが平均的水準	当面の返済能力には不安がないが、格付4以上に環境の変化などにより将来において安全性が低下するおそれがある。		
格付6	リスクやや高いが許容範囲	当面の返済能力はそれほど不安ではないが、長期的に安全性を維持できるという確実性は低い。		
格付7	リスク高く徹底管理	すぐに債務不履行に陥るというわけではないが、現時点においてすでに返済の確実性が低く、安全性に欠ける。将来的にみても安全性には懸念がある。	要注意先	要管理先
格付8	警戒先	すでに債務不履行にあるか、あるいは重大な危険性が認められる。企業内容はかなり悪化しており、経営が行き詰まる可能性が高い。		
格付9	延滞先	債務不履行中でかつ解消のめどが立たない。貸出金の回収に重大な懸念を生じており、損失の発生が見込まれる状態にある。経営は継続しているが回収の難しい先。	破綻懸念先	
格付10	事故先	不良債権化し、貸出金回収の見込みもなく、償却を要する。	実破綻先	破綻先

スコア	格付け	ポイント
90以上	1	リスクなし
80以上	2	ほとんどリスクなし
65以上	3	リスク些少
50以上	4	リスクあるが良好水準
40以上	5	リスクあるが平均的水準
25以上	6	リスクやや高いが許容範囲
25未満	7	リスク高く徹底管理
警戒先	8	現在債務不履行
延滞先	9	債務不履行でメドたらず
事故先	10	履行のメド全くなし

格付け判定

7

債務不履行していない場合の最低ランクは「7」です。「7」と判定されますと資金調達は非常に厳しい見方をされますので「6」以上を目指しましょう！！
 (注)実際の格付は金融機関ごとに異なります。

当期

財務格付けワークシート

単位 千円

平成24年3月31日

	結果	配点	点数	説明
1 安全性項目				
自己資本比率	25.0%	10	5	自己資本÷総資産
ギアリング比率	240.0%	10	2	有利子負債(商手除く)÷自己資本
固定長期適合率	71.4%	7	3	固定資産÷(固定負債+自己資本)
流動比率	166.7%	7	7	流動資産÷流動負債
2 収益性項目				
売上高経常利益率	2.5%	5	3	経常利益÷売上高
総資本経常利益率	2.5%	5	3	経常利益÷総資本
収益フロー	3	5	3	2期連続黒字
3 成長性項目				
経常利益増加率	4.2%	5	0	(当期経常利益-前期経常利益)÷前期経常利益
自己資本額	25	15	1	自己資本(単位:百万円)
売上高	100	5	1	売上高(単位:百万円)
4 返済能力				
債務償還年数	10.3	20	5	有利子負債(商手除く)÷償却前営業利益(単位:年)
インタレスト・カバレッジ・レシオ	1.6	15	4	(営業利益+受取利息・配当金)÷支払利息・割引料
キャッシュフロー額	5,800	20	2	営業利益+減価償却費(単位:千円)
定量要因計		129	39	
100点法による採点		100	30	

格付	ポイント	内容	債務者区分
格付1	リスクなし	安全性は最高水準に達しており、財務内容とも極めて優れていると判断される企業。融資先としてのリスクは最小限で、債務償還は非常に安定的な収益からもたらされ、返済の可能性が最も高い。個別要因の変化はあっても、今後数年間は極めて安定的に業況推移すると考えられる。	正常先
格付2	ほとんどリスクなし	かなり優れていると判断される企業。格付1とともに上位格付の企業であり、現在のところ返済の確実性は極めて高く、業況にも懸念がない。ただし、格付1と比較すると安全性はやや劣り、長期的には与信リスクに影響を及ぼす要因が発生する可能性もある。	
格付3	リスク些少	貸出先としてはかなり魅力的。かつ安定した内容を有する企業である。返済の可能性はかなり高く、元利払いが滞る可能性は低い。長期的な視野に立って見ると安全性を低下せしめる要因が顕在化する可能性を秘めている。	
格付4	リスクあるが良好水準	現時点での融資元利払いの確実性は高いが、やや心配な特定の要因を内包しており、将来的に返済の確実性が低下するか、信用状況に懸念が生じる可能性がある。償還能力が安定すると判断する要素が不足しており、実際上のリスクがあると判断される。	
格付5	リスクあるが平均的水準	当面の返済能力には不安がないが、格付4以上に環境の変化などにより将来において安全性が低下するおそれがある。	
格付6	リスクやや高いが許容範囲	当面の返済能力はそれほど不安ではないが、長期的に安全性を維持できるという確実性は低い。	
格付7	リスク高く徹底管理	すぐに債務不履行に陥るというわけではないが、現時点においてすでに返済の確実性が低く、安全性に欠ける。将来的にみても安全性には懸念がある。	要注意先
格付8	警戒先	すでに債務不履行にあるか、あるいは重大な危険性が認められる。企業内容はかなり悪化しており、経営が行き詰まる可能性が高い。	
格付9	延滞先	債務不履行中でかつ解消のめどが立たない。貸出金の回収に重大な懸念を生じており、損失の発生が見込まれる状態にある。経営は継続しているが回収の難しい先。	破綻懸念先
格付10	事故先	不良債権化し、貸出金回収の見込みもなく、償却を要する。	実破綻先

スコア	格付け	ポイント
90以上	1	リスクなし
80以上	2	ほとんどリスクなし
65以上	3	リスク些少
50以上	4	リスクあるが良好水準
40以上	5	リスクあるが平均的水準
25以上	6	リスクやや高いが許容範囲
25未満	7	リスク高く徹底管理
警戒先	8	現在債務不履行
延滞先	9	債務不履行でメドたらず
事故先	10	履行のメド全くなし

格付け判定

6

債務不履行していない場合の最低ランクは「7」です。「7」と判定されますと資金調達は非常に厳しい見方をされますので「6」以上を目指しましょう！！
 (注)実際の格付は金融機関ごとに異なります。

格付スコアリングシート

																				前期	当期		
定量要因	配点	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
1.安全性項目																							
自己資本比率	10											60%以上	50%以上	40%以上	35%以上	30%以上	25%以上		20%以上		15%以上	15%未満	
ギアリング比率	10											50%以内		100%以内		150%以内		200%以内		250%以内		250%超	
固定長期適合率	7														50%以内		60%以内		80%以内		100%以内	100%超	
流動比率	7														160%以上		140%以上		120%以上		100%以上	100%未満	
2.収益性項目																							
売上高経常利益率	5																4%以上	3%以上	2%以上	1%以上	1%未満	マイナス	
総資本経常利益率	5																3%以上		1%以上		1%未満	マイナス	
収益フロー	5																3期連続黒字		2期連続黒字			その他	
3.成長性項目																							
経常利益増加率	5																30%以上	20%以上	15%以上	10%以上	5%以上	5%未満	
自己資本額	15						100億円超			100億円以下		70億円以下		50億円以下	30億円以下	10億円以下	7億円以下	5億円以下	3億円以下	1億円以下	5000万円以下	債務超過	
売上高	5																30億円以上		10億円以上	5億円以上	1億円以上	1億円未満	
4.返済能力																							
債務償還年数	20	1年以内			3年以内			5年以内			7年以内						9年以内		12年以内		15年以内	20年以内	20年超
インタレスト・カバレッジ・レシオ	15						5倍超			5倍以内		4倍以内		3倍以内	2.5倍以内	2倍以内			1.75倍以内	1.50倍以内	1.25倍以内	1倍未満	
キャッシュフロー額	20	100億円超		100億円以下		70億円以下		50億円以下		30億円以下		10億円以下		7億円以下		5億円以下			3億円以下		1億円以下	マイナス	

※当期が前期と同評価だった場合は当期と同色

定性要因	配点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
市場動向	10	成長期	成熟期			離陸期			衰退期			急減期
景気感応度	3								低い		普通	高い
市場規模	4							1兆円以上	1000億円以上	300億円以上		300億円未満
競合状態	7				独占・寡占		競合穏やか			競合激しい		過当競争
業暦	5						30年以上		10年以上		5年以上	5年未満
経営者・経営状態	10	優良		良好			普通		やや劣る(後継者なし)			劣る
株主	5						上場かつ安定		上場かつ大きな問題なし		非上場だが安定	問題あり
従業員のモラル	3								問題なし	問題あるが影響なし		経営に影響あり
営業基盤	10	極めて強固		強固			相当の基盤あり			やや劣る		劣る
競争力	7				非常に強い		強い		普通	やや劣る		劣る
シェア	7				非常に高い		高い			普通・限定地域で独占		やや劣る

定量項目(単位)	補足説明(計算式は格付表に記載)
自己資本比率(%)	企業の体力を示す
ギアリング比率(%)	資金調達のうち借入金の自己資本に対する大きさを示す
固定長期適合率(%)	固定資産を長期資金で賄えているかどうかを示す
流動比率(%)	短期の債務を即資金化できる資産で返済できるかを示す
売上高経常利益率(%)	
総資本経常利益率(%)	少ない資産で大きな利益を稼げるかどうか経営効率を示す
収益フロー	黒字が何期連続しているか
経常利益増加率	
自己資本額(百万円)	
売上高(百万円)	
債務償還年数(年)	借入金を利益等によるキャッシュフローにより何年で返せるかを示す
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	金利支払能力を示す
キャッシュフロー額(百万円)	簡便計算によりキャッシュフローの大きな規模を示す

当社株式の一株当たりの価額

前期 @ 112,500円

当期 @ 125,000円

改善後 @ 225,000円

※簡易的な計算に基づく価額です。実際の株価を算定するには、適正な時価等を考慮した価額で評価する必要があります。

財務格付けワークシート(改善シミュレーション)

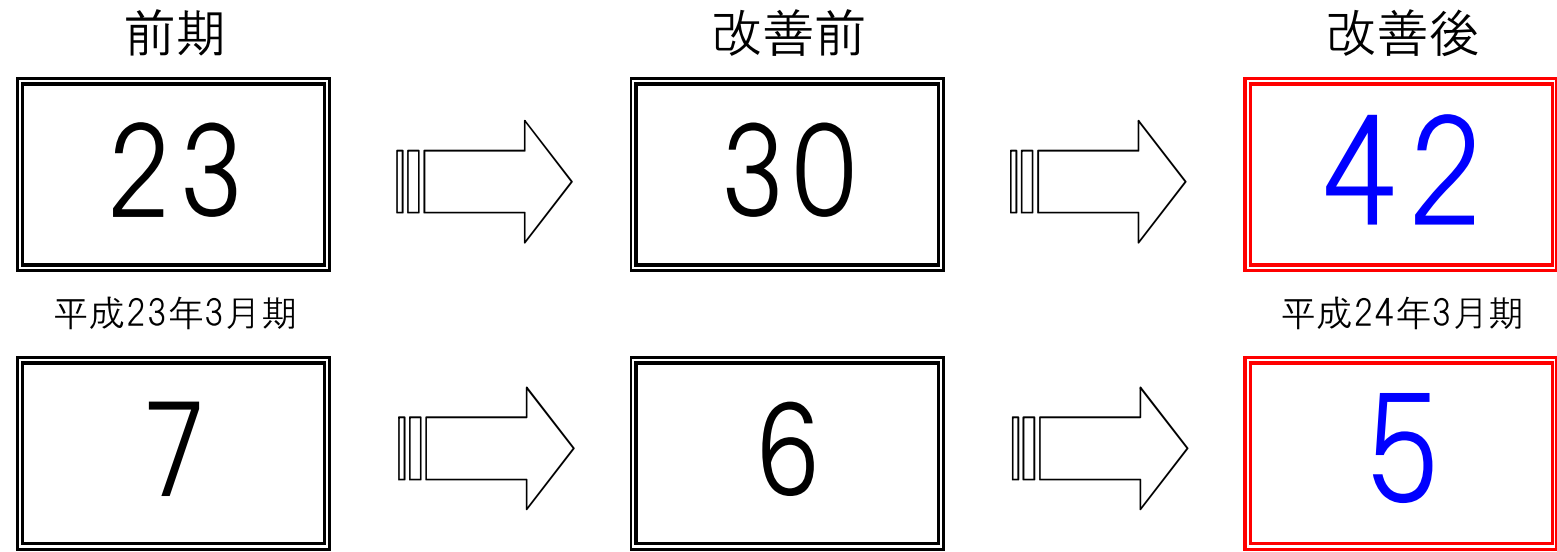
増加
減少

(単位:千円)

		前期		改善前当期		
1 安全性項目	配点	結果	点数	結果	点数	差異
自己資本比率	10	23.1%	3	25.0%	5	2
ギアリング比率	10	266.7%	0	240.0%	2	2
固定長期適合率	7	74.1%	3	71.4%	3	0
流動比率	7	158.3%	5	166.7%	7	2
2 収益性項目						
売上高経常利益率	5	2.4%	3	2.5%	3	0
総資本経常利益率	5	2.5%	3	2.5%	3	0
収益フロー	5	0	0	3	3	3
3 成長性項目						
経常利益増加率	5	-220.0%	0	4.2%	0	0
自己資本額	15	23	1	25	1	0
売上高	5	100	1	100	1	0
4 返済能力						
債務償還年数	20	10.3	5	10.3	5	0
インタレスト・カバレッジ・レシオ	15	1.6	4	1.6	4	0
キャッシュフロー額	20	5,800	2	5,800	2	0
定量要因計	129		30		39	9
100点法による採点	100		23		30	7

改善後				説明
結果	点数	結果差異	点数差異	
45.0%	8	21.9%	5	自己資本÷総資産
88.9%	8	-177.8%	8	有利子負債(商手除く)÷自己資本
71.4%	3	-2.6%	0	固定資産÷(固定負債+自己資本)
166.7%	7	8.3%	2	流動資産÷流動負債
2.5%	3	0.1%	0	経常利益÷売上高
2.5%	3	0.0%	0	経常利益÷総資本
3	3	3	3	それ以外
4.2%	0	224.2%	0	(当期経常利益-前期経常利益)÷前期経常利益
45	1	23	0	自己資本(単位:百万円)
100	1	0	0	売上高(単位:百万円)
6.9	11	-3.4	6	有利子負債(商手除く)÷償却前営業利益(単位:年)
1.6	4	0.0	0	(営業利益+受取利息・配当金)÷支払利息・割引料
5,800	2	0	0	営業利益+減価償却費(単位:千円)
	54		24	
	42		19	

スコア	格付け	ポイント
90以上	1	リスクなし
80以上	2	ほとんどリスクなし
65以上	3	リスク些少
50以上	4	リスクあるが良好水準
40以上	5	リスクあるが平均的水準
25以上	6	リスクやや高いが許容範囲
25未満	7	リスク高く徹底管理
警戒先	8	現在債務不履行
延滞先	9	債務不履行でメダたず
事故先	10	履行のメダ全くなし



当社株式の一株当たりの価額
 前期 @ 112,500円
 当期 @ 125,000円
 改善後 @ 225,000円

※簡易的な計算に基づく価額です。実際の株価を算定するには、適正な時価等を考慮した価額で評価する必要があります。

実際に増資しなくとも「金融検査マニュアル(別冊)」の事例1では、「債務者区分の判断に当たり、当該代表者からの借入金について当面要求しないことが認められるのであれば、これを自己資本相当と考えることは可能である。」とされています。長期借入金の中に役員借入金がある場合は、役員長期借入金と別枠表示しておけば、これだけで定量点が12点も上がるんです！今度は決算書提出する前にチェックしますよ！

格付スコアリングシート

																			前期	当期	改善後		
定量要因	配点	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
1.安全性項目																							
自己資本比率	10											60%以上	50%以上	40%以上	35%以上	30%以上	25%以上		20%以上		15%以上	15%未満	
ギアリング比率	10											50%以内		100%以内		150%以内		200%以内		250%以内		250%超	
固定長期適合率	7														50%以内		60%以内		80%以内		100%以内	100%超	
流動比率	7													160%以上		140%以上		120%以上			100%以上	100%未満	
2.収益性項目																							
売上高経常利益率	5																4%以上	3%以上	2%以上	1%以上	1%未満	マイナス	
総資本経常利益率	5																3%以上		1%以上		1%未満	マイナス	
収益フロー	5																3期連続黒字		2期連続黒字			その他	
3.成長性項目																							
経常利益増加率	5																30%以上	20%以上	15%以上	10%以上	5%以上	5%未満	
自己資本額	15						100億円超			100億円以下		70億円以下		50億円以下	30億円以下	10億円以下	7億円以下	5億円以下	3億円以下	1億円以下	5000万円以下	債務超過	
売上高	5																30億円以上		10億円以上	5億円以上	1億円以上	1億円未満	
4.返済能力																							
債務償還年数	20	1年以内			3年以内			5年以内			7年以内				9年以内		12年以内		15年以内	20年以内	20年超		
インタレスト・カバレッジ・レシオ	15						5倍超			5倍以内		4倍以内		3倍以内	2.5倍以内	2倍以内		1.75倍以内	1.50倍以内	1.25倍以内		1倍未満	
キャッシュフロー額	20	100億円超			100億円以下			70億円以下			50億円以下		30億円以下		10億円以下		7億円以下		5億円以下		3億円以下	1億円以下	マイナス

※当期が前期と同評価だった場合は当期と同色

定性要因	配点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
市場動向	10	成長期	成熟期			離陸期			衰退期			急減期
景気感応度	3								低い		普通	高い
市場規模	4							1兆円以上	1000億円以上	300億円以上		300億円未満
競合状態	7				独占・寡占			競合穏やか		競合激しい		過当競争
業暦	5						30年以上		10年以上		5年以上	5年未満
経営者・経営状態	10	優良		良好			普通		やや劣る(後継者なし)			劣る
株主	5						上場かつ安定		上場かつ大きな問題なし		非上場だが安定	問題あり
従業員のモラル	3								問題なし	問題あるが影響なし		経営に影響あり
営業基盤	10	極めて強固		強固			相当の基盤あり			やや劣る		劣る
競争力	7				非常に強い		強い		普通	やや劣る		劣る
シェア	7				非常に高い		高い			普通・限定地域で独占		やや劣る

定量項目(単位)	補足説明(計算式は格付表に記載)
自己資本比率(%)	企業の体力を示す
ギアリング比率(%)	資金調達のうち借入金の自己資本に対する大きさを示す
固定長期適合率(%)	固定資産を長期資金で賄えているかどうかを示す
流動比率(%)	短期の債務を即資金化できる資産で返済できるかを示す
売上高経常利益率(%)	
総資本経常利益率(%)	少ない資産で大きな利益を稼げるかどうか経営効率を示す
収益フロー	黒字が何期連続しているか
経常利益増加率	
自己資本額(百万円)	
売上高(百万円)	
債務償還年数(年)	借入金を利益等によるキャッシュフローにより何年で返せるかを示す
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	金利支払能力を示す
キャッシュフロー額(百万円)	簡便計算によりキャッシュフローの大きな規模を示す

当社株式の一株当たりの価額

前期 @ 112,500円

当期 @ 125,000円

改善後 @ 225,000円

※簡易的な計算に基づく価額です。実際の株価を算定するには、適正な時価等を考慮した価額で評価する必要があります。

格付アップ検討ポイント

チェックポイント	チェック項目	年度中	○か×
①総資産の圧縮			
	1)流動資産にある非流動項目の整理をしたか？		
	2)売掛金の徹底回収をしているか？	●	
	3)陳腐化棚卸資産の償却は可能か？	●	
	4)遊休資産の処分、繰延資産の償却等は可能か？	●	
	5)役員貸付金が不良債権だと認定されないようにしているか？	●	
②有利子負債の圧縮			
	1)定期預金と借入金の相殺は可能か？	●	
	2)運転資金の圧縮等は可能か？	●	
	3)役員借入を行い、銀行借入を返済することは可能か？	●	
③自己資本の増加			
	1)社長借入金を資金源にした増資は可能か？	●	
	2)実質債務超過にならないために、長期借入金の中に役員借入金がある場合は、役員長期借入金と別枠表示し、自己資本比率をアップさせているか？		
	3)事業の統廃合を検討したか？	●	
	4)含みの顕在化等はできるか？	●	
	5)繰越損失があつて任意積立金がある場合は、それを取り崩しているか？		
④償却前営業利益の増加			
	1)値引きの減少はしているか？	●	
	2)仕入単価／外注単価の見直しはしているか？	●	
	3)外注のカット(内製化)はできているか？	●	
	4)利益率の高い商品群の売上割合の向上等はできているか？	●	
	5)本来は損益計算書の営業利益に該当する収入が営業外収益や特別利益になっていないか？		
	6)営業内の費用で本来営業外・特別損失に計上すべきものはないか？		
	7)臨時的・偶発的なものと、経常的なものをきちんとチェックする		
	8)減価償却費で今期償却すべき償却費以外の金額を前期損益修正損に計上しているか？		